

2025 年 2 月 5 日

新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、下記の検査項目を新たに受託開始させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

今後も弊社では皆様方のご要望にお応えできるよう、検査内容を充実させて参りますので、何卒お引き立ての程、宜しく願い申し上げます。

敬白

記

【新規受託項目】

コードNo.	検査項目名
14116 (従来システム 6432)	トランスフェリン(Tf)/免疫比濁法
14143 (従来システム 6433)	トランスサイレチン(プレアルブミン)/免疫比濁法
14150 (従来システム 6434)	レチノール結合蛋白(RBP)/ラテックス凝集比濁法

トランスフェリンは生体内で鉄を輸送する鉄結合性糖蛋白で、その血中濃度測定は貯蔵鉄の把握や貧血の原因疾患鑑別などに用いられます。

トランスサイレチン(プレアルブミン)は主にサイロキシシン(T₄)と結合し T₄ 輸送蛋白の機能を有します。また、レチノール結合蛋白(RBP)は血中のレチノール(ビタミン A)と特異的に結合する蛋白で、レチノールの輸送に関与します。これらの蛋白は血中半減期が短いため、栄養状態を把握する検査として用いられます。

この度、検査精度向上を目的として、トランスフェリンおよびトランスサイレチンは免疫比濁法の試薬、レチノール結合蛋白はラテックス凝集比濁法の試薬を用いた検査の受託を開始いたします。

【開始時期】 2025 年 2 月 17 日 (月) ご依頼分より

●インフォメーションNo.2025-5にてご案内しましたとおり、現行のトランスフェリン(Tf)〈コード No.00860(従来システム 293)〉、プレアルブミン(トランスサイレチン)〈コード No.00877(従来システム 831)〉、レチノール結合蛋白(RBP)〈コード No.00875(従来システム 832)〉は、2025 年 3 月 29 日(土)ご依頼分をもって検査の受託を中止させていただきます。

尚、詳細につきましては、営業担当者またはインフォメーションまでお問い合わせ下さい。

本社 〒710-0834 倉敷市笹沖 468 番地の 5

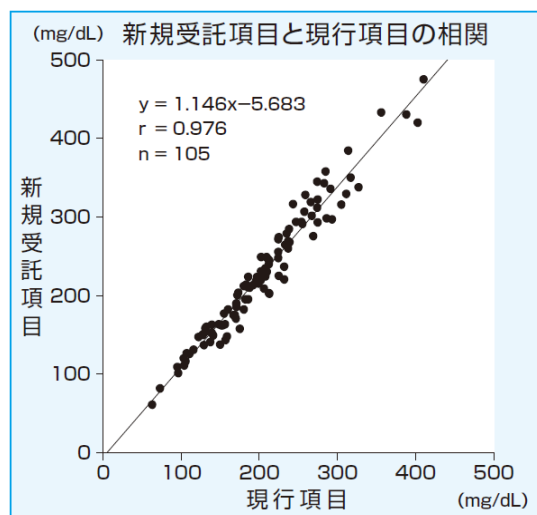
インフォメーション TEL(086)427-2323

ホームページ <http://www.oml-inc.jp>

【受託要領】

	新規受託項目	ご参考:現行項目
コード No.	14116 (従来システム 6432)	00860 (従来システム 293)
検査項目名	トランスフェリン	同左
検体量	血清 0.5mL	同左
採取容器	B (汎用容器(分離剤入り))	同左
保存方法	冷蔵	同左
検査方法	免疫比濁法	ネフエロメリー
基準範囲	190～320	同左
単位	mg/dL	同左
所要日数	3～4日	2～4日
報告範囲	4未満～最終値	1未満～最終値
報告桁数	整数	同左
検査実施料/判断料	60点 /免疫学的検査 144点	同左

<相関図（ご参考）>



(委託先検討資料)

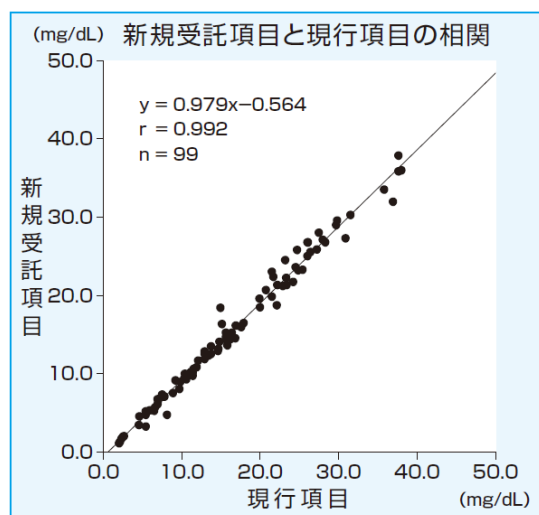
《検査方法の参考文献》

古田島伸雄, 他: 日本臨床検査自動化学会会誌 32, 84～88, 2007.

【受託要領】

	新規受託項目	ご参考:現行項目
コード No.	14143 (従来システム 6433)	00877 (従来システム 831)
検査項目名	プレアルブミン	同左
検体量	血清 0.5mL	同左
採取容器	B (汎用容器(分離剤入り))	同左
保存方法	冷蔵	同左
検査方法	免疫比濁法	ネフエロメリー
基準範囲	22.0～40.0	同左
単位	mg/dL	同左
所要日数	3～4日	2～4日
報告範囲	0.2未満～最終値	0.5未満～最終値
報告桁数	小数第1位	同左
検査実施料/判断料	101点 /免疫学的検査 144点	同左

<相関図（ご参考）>



(委託先検討資料)

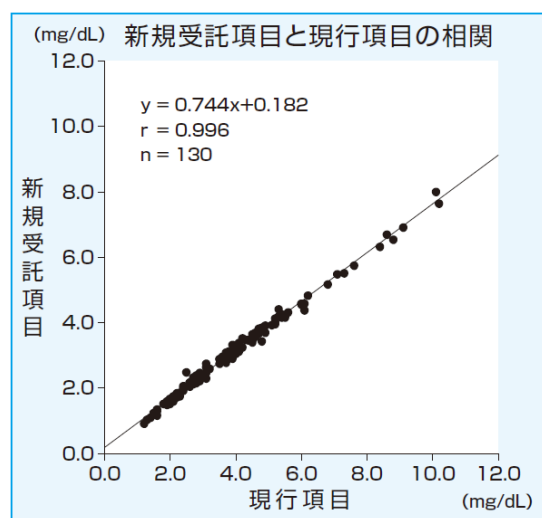
《検査方法の参考文献》

古田島伸雄, 他: 日本臨床検査自動化学会会誌 32, 84～88, 2007.

【受託要領】

	新規受託項目	ご参考:現行項目
コード No.	14150 (従来システム 6434)	00875 (従来システム 832)
検査項目名	レチノール結合蛋白	同左
検体量	血清 0.5mL	同左
採取容器	B (汎用容器(分離剤入り))	同左
保存方法	冷蔵	同左
検査方法	ラテックス凝集比濁法	ネフェロメトリー
基準範囲	男性:2.7~6.0 女性:1.9~4.6	2.5~7.1
単位	mg/dL	同左
所要日数	3~4日	2~4日
報告範囲	0.1未満~最終値	0.2未満~最終値
報告桁数	小数第1位	同左
検査実施料/判断料	132点 /免疫学的検査 144点	同左

<相関図 (ご参考)>



(委託先検討資料)

《検査方法の参考文献》

古田島伸雄, 他: 日本臨床検査自動化学会会誌 32, 84~88, 2007.

以上